

夜間記録も破る

滞空時間 13 時間 41 分 8 秒

河辺滑空士草野町の歓呼

【久留米】世界記録を目指して快翔中無風状態となったので山林地帯薄暮の熱上昇気流を捉えて山肌すれすれに跳び続けていた「かもめ号」はついに世界記録更新を断念して着陸したが、夜間飛行時数 6 時間 2 分 7 秒の日本新記録を樹立し万丈の気を吐いた、日本新記録成るの快報を入手した河辺滑空士の恩師帝国飛行協会福岡県支部滑空部長大神時雄氏と滑空指導の九大航空学教授佐藤博博氏等駆けつけ河辺氏と感激の劇的握手を交わし深夜に湧き立つ草野町民の歓呼の声に迎えられながら上野町長宅に赴き限りなき地元の声援を謝した後同夜は同町小屋松千太郎氏宅へ空の疲れを休めたが、まどろむ閑もなく押寄せた町内有志達の応接に徹宵、午前 9 時には早くも前田所長一行と若宮八幡宮に参拝、壮挙成就の奉告を行った

なお河辺滑空士は日本新記録の樹立では満足せず近く再び壮挙を決行の予定

安否気遣う中に忽然着陸

新記録成まで

世界記録は破れなかったが、滞空 13 時間 41 分 38 秒の輝かしい日本記録を打ち樹てた“かもめ” 703 型は 7 日午前 10 時 26 分久留米市外耳納山発心山頂を飛出してから高度 1, 300 メートル、上昇気流にフワリと浮いて鷹鳥、鎧山、高良山上空を飛びつづけ午後 4 時には早くも自己の保持する 5 時間 6 分、同 7 時には西日本記録 7 時間 24 分をわけなく破り折柄の月明に悠々快翔していたが、同 8 時すぎごろからバツタリ消息を絶ち地方との連絡がとれなくなってしまった、尾翼と両翼に取りつけた 3 個の標識灯が肉眼でも望見されるのに僅かな希望を繋ぎ在郷軍人、青年団の応援を求めた地上部隊では八方捜査を開始したが、機体は杳として発見されず焦らだしくも不安な時刻を過ごすうち約 4 時間を経過した 8 日午前零時ごろ忽然と着陸予定地点たる筑後河原太郎原上空に 400 メートルの高度に鵬翼を現わし午前 0 時 8 分 3 秒迄るが如く見事着陸、先月 26 日金光漢 2 級滑空士が奈良県生駒山で樹立した 11 時間 30 分 30 秒の新記録を 3 時間余も凌駕しグライダー単座新日本記録をじゅりつしたものである

22 歳の青年

河辺氏の経歴

【久留米】滑空界に輝かしき新記録を樹立した河辺滑空士はまだ 22 歳の若冠、シアトル生れで、筑紫中学卒業後九州青年航空団に入り腕を磨き昨年 10 月前田航研工業所に入所、製作設計技術の研究をなし飛行技術のみならず工場員全部のグライダー訓練の指導に当っており、日本滑空界のホープとして将来を嘱望されている

弱い風に苦勞

河辺滑空士の喜び

いささかの疲労の色もみせず地上に降り立った河辺滑空士はニッコリ微笑ながら語る

「夜間飛行に最も困難な 2 メートルから 3 メートルの弱い風を捉えて飛ぶので非常に苦勞しいつも山肌すれすれに飛んだ、日本最初の山林地帯の薄暮熱上昇風（アーベントテルミーク）の利用が成功の基をなしたと思う

が、優秀な機体によるのは勿論地元民各位その他各方面の御声援の賜と深く感謝しています」

前田建一氏の話「薄暮上昇飛行は世界的にも稀な飛行でわが国では画期的なものである、これも搭乗者の沈着と機体の優秀さによるもので大いに誇示していい来年 11 月頃再び発心山上で世界記録突破を目指し決心する覚悟です」

松本記

前田式 703 型の操縦席、風防の中の河辺滑空士の写真は珍しい。左側には霜を落とすための四角い小窓が見える。